

花きの活用促進のための花育体験の取組

豊橋市立高根小学校 4年生の

令和3年9月～12月にわたる花育体験記録

洋らんを咲かせて感謝の気持ちを伝えよう！



事業及びメニュー	<p>ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業</p> <p>花きの活用促進のための花育体験、園芸体験</p>
取組名称	<p>子ども「らん育」プロジェクト</p>
目的	<p>児童が教育の現場において地域で生産されている花や緑に触れ育てる機会をつくり、開花までの一連の栽培活動を通じて、生命の尊さを実感してもらいつつ、「やさしさや美しさ」を感じる気持ちを醸成。</p>
取組内容	<p>はなわく JAPAN（豊橋市花き園芸振興協議会の洋らん部会）が豊橋市立高根小学校に出向き、花育教室（全4回（リモート授業1回含む））を実施</p>

花芽付きのコチョウランの苗を小学4年生一人ひとりに提供し、約3か月間（9月下旬～12月上旬）、水やりなど丁寧に管理をしつつ花を育て、咲かせることを体験。

【リモート授業の実施・9月28日：高根小学校4年生クラス⇄マルタカ園芸（北谷淳史）】

温室は資源化センターの近くにあります。



大きさを確認してもらうため、物差しで示しています。（でっかい！コチョウランだな！）



洋ランは直射日光が苦手のため、黒いカーテンで日光を直接当たらないようにしているんだよ。このカーテンを「遮光カーテン」と呼んでいます。



【第1回：10月4日】

はなわく JAPAN（豊橋市花き園芸振興協議会洋らん部会）の伊藤さんと北谷さんが講師です。
よろしくお願いします！



ひとり1鉢選んでね！
どれにしようか迷っちゃうな？



豊橋の洋らん生産は日本一です！



水やりは、このくらいかな？



【第2回：11月8日】

講師の伊藤さん、北谷さんからは、「花の健康チェック、キズはないでしょうか？」
「花芽や根をよけて、はちに支柱をさします、そしてピンチで茎を支柱に留めて！」
と丁寧に教えていただきました。
さあ、もう少しで花が咲きます、それまでしっかりと世話をしてください。

花（コチョウラン）の健康チェック！



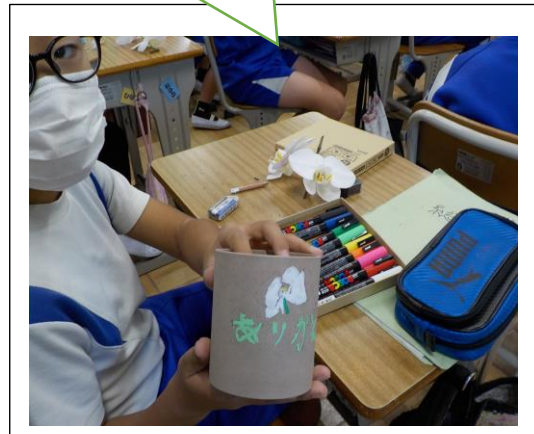
よく見てー。支柱を指す位置はここ！





講師の伊藤さん北谷さんが作っているコチョウラン、花が大きく「大輪」と呼ぶそうです。




鉢にコチョウランの花を描きました。ありがとうの気持ちを伝えるために！




高根だより


12月号
 豊橋市立高根小学校
 R.3.11.19

花が咲き始めたよ！胡蝶蘭の栽培 4年生
 4年生では、高根校区で栽培が盛んな胡蝶蘭の学習をしています。水やりの仕方や温度管理など地域ボランティアの先生から教えていただいたことに気を付けて栽培体験もしています。もう、花が咲き始めている子もいます。「高根の花」胡蝶蘭を通して、地域を愛する子に育ててほしいと願っています。



12月の行事予定

月	火	水	木	金	土	日
---	---	---	---	---	---	---

【第3回：12月6日】

コチョウランが咲いたら、日頃の感謝を込めて大切な人（保護者、家族）へプレゼントをすることで、花への関心を深めるとともに親しみを感じてもらい、コチョウランを含め花きの需要拡大への契機とします。

ラッピングフィルムに絵を描いて家族にプレゼント！



照れくさいけど、「いつも、ありがとう」って書こう！



家に帰ったら、大事に育てた「らん」をプレゼント！



3か月の間、みんなで心をこめて大事に「らん」を育てたよ！



【花育体験アンケート】

花育体験終了後、4年生児童の皆さんと保護者の方にアンケートに答えてもらいました。

【4年生児童】

Q1. 「らん」の花育体験は楽しかったですか？	<input type="checkbox"/> 楽しい	<input type="checkbox"/> 楽しくない	<input type="checkbox"/> わからない		計
	36人				36人
	95.0%	0.0%	0.0%		100.0%
Q2. 今回の花育体験で、どんな気持ちになりましたか？	<input type="checkbox"/> 癒された	<input type="checkbox"/> 元気になった	<input type="checkbox"/> 緊張や不安がほぐれた	<input type="checkbox"/> 特になし	計
	9人	15人	8人	4人	36人
	25.0%	41.7%	22.2%	11.1%	100.0%
Q3. 自分で大切に育てた「らん」の花を家族に贈ったときの気持ちは？	<input type="checkbox"/> 感謝の気持ち	<input type="checkbox"/> 一つの事をやり遂げた気持ち	<input type="checkbox"/> 特になし		計
	31人	5人			36人
	86.1%	13.9%	0.0%		100.0%
Q4. またやりたいですか？	<input type="checkbox"/> やりたい	<input type="checkbox"/> やりたくない	<input type="checkbox"/> 分からない		計
	33人		3人		36人
	91.7%	0.0%	8.3%		100.0%

アンケート結果分析

○花育体験は全ての児童が楽しいと回答（100%）。

花生体験を通して「元気になった（41.7%）」「癒された（25.0%）」「緊張や不安がほぐれた（22.2%）」と回答しており、花（植物）を育てる過程において児童に与える癒しの効果、情緒面での影響が大きいことが伺えます。

○また、自分自身で大切に育てた花を家族に贈る時には「感謝の気持ち（86.1%）」を込めており、花育の体験により優しさや思いやりの気持ちが一層醸成されています。

○今回の花生体験を契機に殆どの児童が、「またやりたい（91.7%）」と回答、花（植物）を自分で育てることへの達成感が感じ取れ、今後、花きの需要拡大に貢献することが期待されます。

【保護者】

Q1. 花育体験後、ご家庭で花や緑に対する心の変化がありましたか？（複数回答も可）	□花や緑が身近にあると癒しや、部屋の雰囲気明るくなったと感じる。	□アレンジや生け花を始めたいと思う。「始めた」「増えた」	□ガーデニングを始めたい。「始めた」「増えた」	□生花店や園芸店に行く機会を増やしたい。「増えた」	□お祝いなどの贈り物に花や緑を使いたい。「使った」「もっと使いたい」	□これまでと、あまり変わらない。	計
	18人		3人	3人	8人	7人	39人
	46.2%	0.0%	7.7%	7.7%	20.5%	17.9%	100.0%
Q2. 花育体験の前と後で、ご家庭ではどれくらいの花や緑を購入していますか？	花き購入者数（購入頻度）	花育体験前		花育体験後 （花育体験終了2か月後）			
		9人（0.2～2回程度／月）		10人（0.2～3回程度／月）			
<p>アンケート結果分析</p> <p>○花育体験後の心の変化では「癒しや、部屋の雰囲気が明るくなったと感じる。」家庭が最も多く、次いで「贈り物に花や緑を使いたい」との回答が多く、中にはお年賀の品として「花の寄せ植え」を贈ったと回答いただいた保護者もあり、花・緑に対する関心が深まった状況がみられます。</p> <p>○花育体験前後の購入状況では、全体平均では月当たりの平均回数・金額ともに伸びており、また購入者人数では体験前の購入者数9人に対して、体験後は10人と伸びており、花育体験を契機として花きの購入に繋がったことが伺えます。</p>							

この人に
聞く



人と人とのつながりを大切に

胡蝶蘭生産・販売「いとう園芸」(Ito engai)

伊藤 敬志 氏

豊橋市花き園芸振興協議会洋らん部会「はなわくJAPAN」のメンバーである伊藤敬志さん。ミニ胡蝶蘭栽培を通じ、人と人とのつながりをテーマとした「子どもらん育プロジェクト」を実施している。胡蝶蘭生産量日本一を誇る、地元豊橋の生産者としての思いを伺った。

○胡蝶蘭生産にかける思い

胡蝶蘭の栽培では、花の大きさや向き、花の数、左右のバランスが大切です。交互に揃えて咲かせた花が一つでも落ちてしまったり、大きさが揃いであったりすれば、商品としての価値が全くなくなってしまいます。ハウスの中で温度や湿度を24時間管理し、日光の当たり方も調節します。出荷の時期や花を咲かせるタイミングも重要です。ラッピングや包装をし、お客様に届けるまで細心の注意を払っています。花を贈る人、受け取る人の気持ちを考えた花づくりに取り組んでいます。

私が胡蝶蘭の栽培を始めたのは12年ほど前です。勉強会に参加したり、胡蝶蘭農家の方々から教えていただいたりして、試行錯誤しながら胡蝶蘭栽培を始めました。やっつききれいな花ができたと思っても、最初はなかなか売れませんでした。自分たちが育てた胡蝶蘭のよさを認めてもらえるようになるまで何年もかかりました。現在、

豊橋市は生産量日本一となりましたが、まだ生産地としての知名度は低いのが現状です。日本全国で「豊橋市の胡蝶蘭は日本一」という信頼と、豊橋のブランドとして認めていただけるまで、「はなわくJAPAN」の仲間と協力して、普及活動に力を入れていきます。

○「子どもらん育プロジェクト」を通して

「子どもらん育プロジェクト」では、三か月にわたって胡蝶蘭を自分で育てて花を咲かせると同時に、容器を選んで飾りつけやラッピングを施し、メッセージをつけて大切な人に渡しています。

高根小学校の活動の中で、思うように大きく育たなかった胡蝶蘭がありました。その花を取り換えるようかと子どもたちに声をかけると「花は小さくても自分が育てたものをプレゼントしたい」と言われてしまいました。植物を自分で育て関わった時間が、言葉以上に大切だということを、子どもたちから教えてもらいました。

「子どもらん育プロジェクト」を通して、子どもたちの思いやりの気持ちを育てるとともに、私が大切にしている「人と人とのつながり」のお手伝いができるようにしていきたいと考えています。

○これからの学校に願うこと

これからも学校は、子どもたちにとって健康第一で、のびのびと元気に過ごせる場所であり続けてほしいと願っています。そのために、胡蝶蘭栽培農家としてお手伝いしていけることがあれば、積極的に協力していきたいと考えています。

